FD・SDセミナーで得られた「答え」

首都大学東京管理部入試課入試係
城戸　浩介

「シーシュポスの石」というギリシャ神話がある。ゼウスから怒りを買ったコリント王のシーシュポスが、罰として大石を坂の頂上まで押し上げる作業を科される話だ。頂上に運ばれた大石は、それ自体の重みで坂を転げ落ちるため、シーシュポスは作業を永遠に続けることになる。「終わりのない徒労」を意味するそうだ。

長年働き続けていると、仕事にこのような考えを持つ人も中には出てくるのではないかと私は思う。仕事は徒労でも罰でもないが、どんなにやりがいのある職務でも、基本的な部分は同じ内容の繰り返しで成り立っていることが多いからだ。繰り返しである以上、年月を経る間にモチベーションが磨耗していくことは十分考えられる。それでは、この問題に対処するためには一体どうしたらいいか。今回のFD・SD研修で、その「答え」の一つを得られたと私は思う。

南大沢駅南口から京王バスに揺られて約30分。昼過ぎに野猿峠で降りると、むせ返るような緑の匂いが鼻に飛び込んできた。梅雨入りには一足早い5月29日の昼過ぎ。朝から続く霧雨に濡れそぼった木々の中を10分ほど歩いた先に、会場となる八王子セミナーハウスがあった。イベントのフォーラムを思わせる独特の雰囲気の中で、私たちは1泊2日の研修を受けた。

研修内容は講義形式で、学生時代に戻ったような感覚で興味深く聞くことができた。ICU名誉教授でFDの第一人者でもある絹川先生の講演では、高等教育に関する様々な研究者の議論を交えて、現状を俯瞰的に分析。学生が専門を究めるための土台となる共通教育の意味と必要性について論じられた。9割の学生が出席率8割以上である一方で、一日の自修時間が1時間以下の学生が7割を占めること、学生は遊んでばかりいるのではなく、遊ばされていると感じていることなどの事実は印象深く、学生が意欲的に学問を探究して学士力を身に付けるために、大学が主導的に何をするべきかを考えさせられた。

この講演の他にも、本学の質保証システムでは自己点検・評価と認証評価、公立大学法人評価の3種類が存在し、自らの点検・評価が全ての基本になるといった話や、都市教養プログラムのカリキュラムの複雑さや英語教育における組織体制の充実など、複数の講演者の方々による本学の教育システムの解説と課題に関する議論、学生気質の変化に伴い放任主義から手厚いケアへと対応の仕方が変わってきたことを説明された講演など、研修内容は多岐に渡った。本学に勤め始めて間もない若手職員にとって、非常に密度の濃い内容だったと感じている。

中でも特に意義深かったのは、2日目に内藤総務部長が「大学における職員の役割」というテーマで行われた講演だ。内容は一般的な講演とは異なり、できるだけ若手職員の意見を汲み取ろうという姿勢で対話を図るものだった。入職後にこれまで勤めてきた感想や、改善点の要望などを募り、「民間にはない独特の手続きや仕事の仕方、用語が多くて分かりにくい」といった意見も出されるなど、率直なやりとりが交わされた。これにより、問題意識を共有することができたと同時に、本学の職員としての帰属意識が高まったように思う。

総務部長はまた、過去の経験に基づき、仕事をする上で大切な三つのポイントを話された。「逃げない」「諦めない」「嘘をつかない」というものだ。それは一見、当たり前のことかもしれない。しかし、意外なほどシンプルな内容でも、長い間地方行政の第一線で働いてこられた立場の方から発せられたその言葉には重みがあった。

今回の研修では比較的FDに関する内容が多かったが、教学の一線に立つ先生方の話を聞き、本学が抱える課題の把握に役立つという点で、職員の能力開発（スタッフ・ディベロップメント、SD）にも有益だったと思う。

何よりも一番の成果は、部署も職務内容も違う100人近くもの教職員が一堂に会する機会を経験できたことだ。普段は一つの部署内で仕事をしているため、大学の全体像は見えにくいものだが、合同研修を経て大勢の教職員が首都大学東京という組織を支えている事実に改めて気付かされた。そして、私自身もその一端を担う立場であることも。他の同僚たちと連帯感を共有したことで、皆に恥ずかしくないように仕事をしていこうと、気持ちを新たにすることができた。

冒頭で仕事は繰り返しと書いたが、仕事に追われる立場と追う立場では、180度面白さが変わる。そして仕事を追うためには、「『自分が』組織を支えている」という自覚が必要だと思う。その自覚こそが、職務に対するモチベーションの磨耗を防ぐための答えになるのではないか。「シーシュポスの石」の状態を「他山の石」にできるよう、自らに課せられた使命に敏感でありたい。

最後に、このような機会を設けていただいた関係各位の皆様にお礼を申し上げたい。今後も、定期的に職員の能力開発をサポートして頂ければ、と思う。